令和５年度小松市立日末小学校　学校評価２

	目標・具体的取り組み	取組の状況（中間・８月提出）	取組の成果と課題（年度末・３月提出）
ア生徒指導	いじめ・不登校の未然防止・早期発見・早期対応 ・1か月に1回以上児童理解の会を開き、全職員で児童の様子についての情報交換を行い共通理解を図る。 ・児童の実態に応じた「いじめアンケート」を作成し、学期に1回実施する。 ・いじめアンケートの実施に合わせて、学級担任が児童の面談を行う。メディア利用に関するトラブル増加に合わせて、メディア指導を行う。	・児童理解の会を月に1回持てており、情報共有ができた。保健室登校している児童にも、チームで素早く対応でき、元気に登校できるようになってきている。 ・1学期のいじめアンケートからは、重大事案につながる出来事は見られなかった。しかし、アンケート後の聞き取りや何気ない会話の中で児童の率直な思いが見える場面もあったので、2学期以降も「ふれあい週間」を続けていく。 ・夏休み前に、全校児童に対してメディア指導を行った。	・児童理解の会では、気になる児童の様子を情報交換できた。適宜、支援会議を行い、日々変化していく児童の状況に合わせて支援体制がとれた。 ・1学期よりも、児童同士がゆっくり関わる時間が増えたため、アンケートには様々な意見が寄せられた。重大事案につながる案件は見られなかったものの、児童数が減ったことにより、人間関係の固定化がすすみ、不安や悩みを抱える児童が増えた。今後、学年関係なく人間関係を広げられる取り組みが必要だと感じている。
イ特別活動	学級目標を軸にしたよりよい学級・学校づくり ・自分たちの目指す姿を学級目標として掲げ、目指す姿に近づいているかを毎学期末に各学級で振り返り、達成率を書く。 ・各行事の際にはそのねらいを児童と共有する。そのうえで、自分たちの学級目標にある姿に近づくための具体的な行動目標やその行事の中でできることを学級で話し合い、実践し、行事の後に検証する。 ・年間を通してたてわり活動を行い、学年をこえた関わりを通して、学年に応じた児童の役割の自覚を促す。	・学級目標振り返りシートを活用し、1学期の振り返り、2学期頑張りたいこと等児童が振り返る時間が取れた。 ・学級目標をもとに運動会のスローガンづくり、学級づくりを行うことができた。 ・運動会では、振り返りシートを活用して、たて割りでコメントを書き合い、学年をこえて交流することができた。 ・2学期も引き続き、学級目標を軸とした活動。振り返りを行っていく。	・学級目標を学期末に時間をとって振り返ることができた。意識して活動できたと答えた児童は96.7%だった。 ・たてわり遠足、150周年記念事業では、学級目標をもとに各学年でスローガンづくり、縦割りの関わり、また、学級づくりを行うことができた。縦割りで助け合って活動できたと答えた児童は96.7%だった。行事後には、振り返りシートを使って目標にどれだけ近づけたのか検証することができた。 ・年間を通して縦割りを意識し、学年に応じた役割をクラスで協力して行っていた。。 ・今後、学期末の振り返りについては、学習端末で行えるようにできるとよい。
ウ道徳教育	道徳教育の向上 ・校内研修を行い、児童が物事を多面的・多角的に考え、人間理解や他者理解を深め、更に自分で考えを深められるような発問や問い返しを吟味する。 ・年間1回、重点項目の授業構想シートを作成し、授業を行う。	・6月に実施された道徳教育推進教師研修で本校の道徳教育を充実させるために十文字学園女子大学教授 浅見哲也氏の講義を聴講した。その内容を基に、夏休み道徳教育を向上するための校内研修（伝達講習会）を実施する予定である。 ・夏休み中に重点項目の授業構想シートを作成し、2学期に授業を実施する予定である。	・夏休みに道徳教育推進教師が研究で学んだことを校内に伝える伝達講習会を実施することができた。 ・道徳の授業を担当している教師が1つ以上授業構想シートを作成し、授業を実施することができた。またその構想シートは、データとして毎年蓄積されており、次年度以降の授業者が参考にすることができるようにしている。 ・二学期末に道徳の授業を担当した教員を対象にアンケートをとったところ、次年度学校全体で取り組む必要がある事項として「児童が主体的に道徳性を養うための指導」が多く挙げられたため、その点が課題として考えられる。
エ特別支援教育	一人一人を大切にした教育の推進 ・学級担任や教科担任は、ユニバーサルデザイン（UD）を意識した授業づくりや学級づくりを行う。 ・児童理解の会や特別支援校内委員会を定期的に開催して、専門相談員等の専門機関との連携を図りながら、生活や学習上の困難を少しでも改善できるように取り組む。	・UDを意識した具体物操作や図の活用を行っている。 ・児童理解の会や特別支援校内委員会、情報交換を行ったり、気になる児童の保護者と面談を行ったりすることができた。 ・専門相談員派遣を6回利用し、児童の見取り、検査などから支援について教えていただき指導に活かすことができた。	・特別支援の観点から、具体物操作や図を活用するなど誰もが見やすい、わかりやすい授業づくり、学級づくりをしていた。 ・児童理解の会や特別支援校内委員会を定期的に開催するだけでなく必要に応じその都度行った。また専門相談員や通級などの専門機関と連携することができたが、SCや心のカウンセラーとの情報の共有は記録ファイルが頼りになり、教員と直接やり取りしたり、支援が必要な児童とカウンセリングの時間をとるなど有効な活用を考えたい。
オ読書教育	読書量を増やす ・個人が記録ファイルをもち、年間の目標冊数のめあてをもとに自分で学期ごとの目標冊数を決める。読書への意欲を高められるように、個別に励ましたり、図書委員会の活動の一つとしたりして、声をかけていく。学校で決めた目標冊数の達成率が80%以上となるようにする。 ・各教科の学習の中で、教科書に掲載されている本や関連図書の並行読書を推進し、読書量の増加を図る。	・運動会と関連させた読書イベントが、大盛況だったため1学期の読書量を確実に増やすことができた。ただし、冊数を増やすことだけにフォーカスされてしまったため、本当に読書できていたか不確実な部分がある。 ・達成率は100%だった。並行読書の推進と、児童発信の読書イベントが読書量の大幅増につながった。	・読書量は、順調に増えており、達成率は98%だった。読書の推進を、校内放送システムを活用して全校に呼びかけることができたため、読書週間の周知やそれに伴った委員会の企画も効果的に実施できた。 ・各学年に、並行読書の推進として教科書に載っている本を中心に関連図書を学期ごとに配架しているが、活用している学年はそう多くない。配架のしかたや本の提示のしかた、「読んでよかった・楽しかった」と思えるようにするなど工夫が必要である。
カ保健健康教育	よりよい姿勢を保持することができる児童の育成 ・学期に1回簡単な姿勢体操を紹介し、各学級で週1回程度取り組んでもらう。 ・家庭学習がんばり週間に合わせて姿勢週間を設け、家でも姿勢体操に取り組み、よい姿勢を保持するための基礎作りを行う。 ・保健だよりに姿勢に関するコラムを設け、姿勢改善を常に意識できるようにする。	・学級で週1回程度姿勢体操を実施している、に対して職員アンケートでの肯定的な回答は93%だった。2学期以降も新たな体操を紹介し、準備体操とセットで取り組んでもらえるよう働きかけていきたい。 ・姿勢週間では、自宅でも食事中や勉強中など様々な場面で姿勢を正すよう意識できた児童が見られた。 ・保健だよりの姿勢に関するコラムは、あまり掲載できなかった。2学期以降は、新たな姿勢体操を紹介したり、学校保健委員会のテーマとして姿勢を取り上げたりしていきたい。	・2学期も姿勢体操を継続して続けることができたので、3学期も姿勢体操を継続していきたい。 ・学校保健委員会の講演で、児童は小学生のうちから姿勢を正しておくことの大切さを学び、その後の姿勢週間でも保護者と一緒にストレッチに取り組む児童も多くみられた。 ・保健だよりや各種お便りにも姿勢を正すことを意識させる文言を入れていただき、姿勢改善を常に意識できるようにした。今後も姿勢改善に向けた取組を継続し、児童が姿勢を正すことの良さを実感できるようにしていきたい。
キGIGAスクール構想	GIGAタブレット型学習用端末の活用推進 ・授業、帯タイム等で、学年に応じた学習用端末活用スキルを身に付けさせる。 ・校内研修等で、学習用端末の活用について共有する。 ・学期ごとにメディアスキルの定着状況を確認する。	・教師による積極的な端末の活用もあり、児童アンケートの中では、学校での端末の使用について1名を除いて肯定的な回答が得られた。活用スキルが定着できるよう、定期的な確認と計画的な指導を呼びかけていきたい。 ・職員会議後に校内研修をし、実践交流をした。また、端末活用についての校内研修、回覧での発信などを行った。実践交流の中で互いに学びがあり、端末活用の幅を広げることができた。端末を効果的に活用できるよう、さらに校内研修を進めて行きたい。	・学習用端末活用スキルはいずれの学年でも概ね定着が図れており、学校アンケートで学習用端末を効果的に使えていると感じる児童は96.7%であった。 ・校内研修では、実践交流会の他に、授業動画視聴を行い。ICT活用について学ぶ場を設けた。また、職員からのニーズに合わせた内容での校内研修を7回行ったことで、すぐに授業や学級事務などで活用する姿が見られた。 ・今後、児童が端末の使い方を考え、適切に選んでいけるような工夫が必要。
ク家庭・地域との連携	郷土を愛する心の育成 ・さつまいも・イチゴ・大根・米の栽培を通して、地域の方々との交流を大切にし、地域に根付いた体験的な学びを展開する。 ・地域の農業や人を調べ、発信する学習活動を通して地域や郷土に親しみ大切にする心を育てる。	・体験的な学びは計画的に行われ、地域の方にはお世話になっている。2学期の創立150周年記念事業の時には、これらの学びを地域の方に向けて発信していきたい。	創立150周年記念事業の中の記念児童発表では、各学年が体験から学んだことを「劇」「クイズ」等にして発表することができた。また発表の中で「感謝の気持ち」を伝えることができてよかった。来年度もこういった交流を是非続けていきたい。

学校関係者評価	*８／２２（火）学校評議員会より* ・小規模校のアットホームな感じで素直な子ども達が多く、良い学校だと思う。継続して、頑張ってほしい。 ・先生方の頑張りがよく伝わってきた。自分たちが子供のころと違い、めあてを意識しながら活動し、ふりかえる活動を重視して教育活動をしているところが感心される。 ・小学校と保育園の連携を今後も大切にしていきたい。（英語活動・体操教室） ・運動場の草は何とかならないか。草刈りが追い付かないのも理解できる。土を入れ替えるのも一案。 *２／７（水）学校評議員会より* ・アンケートの取り方は難しい。少人数の学校では分母が小さいので傾向を見るのは相応しくない。個に対応しているのがよい。 ・子どもが楽しそうにしている学校行事があってよい。先生方も楽しんでいるのなら、なお良い。 ・保育園では園庭の鉄棒があると、走った時にぶつかり危ないが、小学校ではどうか⇒小学校では走ってぶつかることはないが、怪我には十分注意する必要性があることを共通理解している。鉄棒は小さい時から触れば触るほど上達するので、鉄棒に触ることを大切にしている。 ・縦割り活動は昔からしていて、とても良い伝統だと思う。これからも続けていってほしい。 ・地震を体験し、避難訓練を怖がる子はいないのか⇒防災教育を実施し、心構え、物の備え、避難経路について確認した。体験や怖かった気持ちを吐き出すことで心のケアをしている。アラート音は鳴らさないよう避難訓練をする計画である。